

『簿記教本 [改訂版]』

復習問題標準解答

第 1 章 簿記の基礎

1.

①=オ	②=ス	③=ケ	④=ク	⑤=エ
⑥=シ	⑦=キ	⑧=コ	⑨=イ	⑩=セ
⑪=カ	⑫=ウ	⑬=サ	⑭=ア	⑮=ソ

2.

番号	正誤 (○×) および×の場合の理由
(1)	× 一部の自治体（東京都）では複式簿記システムを並行的に運用しているが、正式の公会計としては、まだ単式簿記が採用されている。
(2)	× 公益法人（社団法人・財団法人）をはじめ、学校法人・宗教法人などの非営利企業においても複式簿記が採用されている。
(3)	× たとえ個人事業主であっても、家庭と企業は会計単位が異なるため、企業の会計帳簿に記載しなければならない。
(4)	○
(5)	× 共通尺度としての金額で把握できないものは、通常、簿記の対象とはならない。

3.

条 件	理 由
(1)貨幣の存在	（複式）簿記ではすべての取引を貨幣金額でとらえるため、貨幣の存在が前提となる。
(2)信用取引の発達	すべての決済を現金（金銭）で行う場合には、おおむね現金（金銭）出納帳の記入、すなわち単式簿記で足りる。信用取引の発達により、債権・債務の管理が不可欠となり、複式簿記が必要となってきた。
(3)記録能力（書法）の獲得	簿記の理解には、「読み・書き・そろばん」といわれるように、最低限の基礎能力としての記録能力（書法）が求められる。

(4) アラビア数字 (インド記数法) の流入	それまでの古典的なローマ数字 (I, II, … X) と比較して, アラビア数字は別名, 算用数字と呼ばれるように, 位取り原理の利用によって, 筆算等の計算および記帳に便利である。
(5) 私有財産制度 の確立	私有財産制度の確立によって, 商人に帰属する財産の管理の必要性が生まれた。
(6) 資本の存在	商品や船などの生産的富としての資本は, 種々の問題を提出し, 疑問を生み, 希望を提起する。これに対する回答を発見しようと努力するうちに, 次第にその要求に役立つ記録方法が発達してきた。
(7) 為替取引の 存在	外国との取引のための継続的な為替取引により, いっそう体系的な会計記録の必要性が高まって, 複式簿記が生成された。

## 第 2 章 貸借対照表と損益計算書

### 1.

#### (1)

貸借対照表等式	資産 = 負債 + 資本
---------	--------------

#### 【解説】

この等式は, 勘定式 (左右対照式) による貸借対照表の構造を示している。その左辺は資金の運用形態を, 右辺は資金の調達源泉を, 全体では財政状態を表している。

#### (2)

収 益	事業主の元入 (出資) や追加元入 (増資) によらず, 経営活動により資本が増加する原因となる損益計算書の構成要素をいう。
費 用	事業主の引出 (減資) によらず, 経営活動により資本が減少する原因となる損益計算書の構成要素をいう。
当期純利益	経営活動の結果生じるその会計期間中における資本の純増加額をいう。収益 - 費用としても計算される。
財 産 法	貸借対照表の観点から, 期末資本と期首資本の比較によって一会計期間の経営活動の結果としての当期純損益を計算する方法をいう。
損 益 法	損益計算書の観点から, 収益と費用の比較によって一会計期間の経営活動の結果としての当期純損益を計算する方法をいう。

2.

《勘定科目》		《勘定の分類》		
借入金	→	( b )	備品	→ ( a )
買掛金	→	( b )	受取手形	→ ( a )
商品	→	( a )	支払家賃	→ ( e )
資本金	→	( c )	現金	→ ( a )
建物	→	( a )	支払手形	→ ( b )
商品売買益	→	( d )	売掛金	→ ( a )
仕入	→	( e )	未収金	→ ( a )
貸付金	→	( a )	福利厚生費	→ ( e )
受取利息	→	( d )		

3.

(1)売掛金	得意先へ商品を掛で販売したときに、相手方に対する代金請求権を表す勘定科目で資産勘定である。
(2)未収金	商品以外の物品を売却して代金を後日受け取る約束をしたときに、相手方に対する代金請求権を表す勘定科目で資産勘定である。
(3)買掛金	仕入先より商品を掛で仕入れたときに、相手方に対する代金支払義務を表す勘定科目で負債勘定である。
(4)未払金	商品以外の物品を購入して代金を後日払いとする約束をしたときに、相手方に対する代金支払義務を表す勘定科目で負債勘定である。
(5)商品	販売することを目的として購入した物品をいい、資産勘定である。
(6)備品	事業を遂行するうえで使用目的のため購入した物品をいい、資産勘定である。

4.

(1)

当期純（利益）	8,000 円
期首資本	200,000 円
期末資本	208,000 円

【解説】

貸借対照表等式より期首資本は¥200,000、期末資本は¥208,000 と算定される。

期末資本－期首資本＝当期純損益より、 $¥208,000 - ¥200,000 = ¥8,000$  となる。

(2)

当期純（利益）	70,000 円
期首資本	150,000 円

【解説】

貸借対照表等式より期首資本は¥150,000 と算定される。

期中追加元入と期中引出があるため期末資本（修正期末資本）は、  
¥270,000 - ¥80,000 + ¥30,000 = ¥220,000 となる。

¥220,000 - ¥150,000 = ¥70,000

(3)

当期純（損失）	80,000 円
---------	----------

【解説】

¥950,000 - ¥1,030,000 = ¥ - 80,000

（収益総額） （費用総額）

(4)

当期純（利益）	382,200 円
---------	-----------

【解説】

¥2,830,000 + ¥32,200 + ¥13,000 = ¥2,875,200 （収益総額）

¥2,493,000 （費用総額）

¥2,875,200 - ¥2,493,000 = ¥382,200 円

(5)

貸借対照表

高崎商会	平成○年 12 月 31 日		(単位：円)
現金	530,000	買掛金	493,000
売掛金	620,000	借入金	575,000
商品	450,000	資本金	1,200,000
車両運搬具	900,000	当期純利益	552,000
備品	320,000		
	<u>2,820,000</u>		<u>2,820,000</u>

損益計算書

高崎商会 平成〇年 1 月 1 日から平成〇年 12 月 31 日まで (単位: 円)

給 料	1,840,000	商品売買益	3,670,000
福利厚生費	620,000	雑 益	5,200
旅費交通費	327,000		
消耗品費	213,200		
租 税 公 課	123,000		
<b>当期純利益</b>	<b>552,000</b>		
	<b>3,675,200</b>		<b>3,675,200</b>
	<b>3,675,200</b>		<b>3,675,200</b>

**【解説】**

貸借対照表等式により

期首資産 = 期首負債 + 期首資本

$$¥2,200,000 = ¥1,000,000 + (\underline{¥1,200,000})$$

期末資産 = 期末負債 + 期末資本

$$¥2,820,000 = ¥1,068,000 + (\underline{¥1,752,000})$$

**第 3 章 取引と勘定**

1.

資 産		負 債		資 本	
(増 加)	(減 少)	(減 少)	(増 加)	(減 少)	(増 加)
費 用		収 益			
(発 生)	(消 滅)	(消 滅)	(発 生)		

2.

簿記上の取引	①, ②, ④, ⑤, ⑥, ⑦
--------	------------------

## 3.

(1)	現金という資産が¥1,000,000 増加 ⇔ 資本金という資本が¥1,000,000 増加
(2)	売掛金という資産が¥450,000 増加 ⇔ $\left[ \begin{array}{l} \text{商品という資産が¥350,000 減少} \\ \text{商品売買益という収益が¥100,000 発生} \end{array} \right.$
(3)	$\left. \begin{array}{l} \text{現金という資産が¥100,000 増加} \\ \text{売掛金という資産が¥460,000 増加} \end{array} \right\} \Leftrightarrow \left[ \begin{array}{l} \text{商品という資産が¥480,000 減少} \\ \text{商品売買益という収益が¥80,000 発生} \end{array} \right.$
(4)	旅費交通費という費用が¥8,500 発生 ⇔ 現金という資産が¥8,500 減少
(5)	現金という資産が¥800,000 増加 ⇔ 借入金という負債が¥800,000 増加
(6)	商品という資産が¥250,000 増加 ⇔ 買掛金という負債が¥250,000 増加
(7)	商品という資産が¥380,000 増加 ⇔ $\left[ \begin{array}{l} \text{現金という資産が¥200,000 減少} \\ \text{買掛金という負債が¥180,000 増加} \end{array} \right.$
(8)	$\left. \begin{array}{l} \text{借入金という負債が¥100,000 減少} \\ \text{支払利息という費用が¥2,500 発生} \end{array} \right\} \Leftrightarrow \text{現金という資産が¥102,500 減少}$

## 第4章 仕訳と転記

1.

### 仕 訳 帳

1

平成○年	月	日	摘 要	元 丁	借 方	貸 方	
12	1		(現 金)	1	1,000,000		
			(資 本 金)	6		1,000,000	
				鈴木商会を開業			
	2		(商 品)	3	500,000		
			(買 掛 金)	4		500,000	
				斉藤商店より仕入			
	5		(売 掛 金)	2	350,000		
			諸 口	3		250,000	
			(商 品)	7		100,000	
				井上商店へ売上			
	7		諸 口	諸 口			
			(現 金)	1	40,000		
			(売 掛 金)	2	100,000		
			(商 品)	3		100,000	
				渡辺商店へ売上			
10		(旅費交通費)	9	2,500			
		(現 金)	1		2,500		
			電車・バス代支払				
11		(消 耗 品 費)	10	1,300			
		(現 金)	1		1,300		
			事務用消耗品を購入				
15		(現 金)	1	1,000,000			
		(借 入 金)	5		1,000,000		
			千代田銀行より借入				
20		(商 品)	3	200,000			
		(買 掛 金)	4		200,000		
			斉藤商店より仕入				

25	(給 料)	8	30,000	
	(現 金)	1		30,000
パート店員へ給料支払				
30	(支 払 家 賃)	11	80,000	
	(現 金)	1		80,000
事務所家賃として東洋商会へ支払				
31	(買 掛 金)	4	700,000	
	(現 金)	1		700,000
斉藤商店の掛代金支払				
			4,003,800	4,003,800

現 金

1

平成○年 月 日	摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 または 貸	残 高
12 1	資本金	1	1,000,000		借	1,000,000
7	諸 口	1	40,000		〃	1,040,000
10	旅費交通費	1		2,500	〃	1,037,500
11	消耗品費	1		1,300	〃	1,036,200
15	借入金	1	1,000,000		〃	2,036,200
25	給 料	1		30,000	〃	2,006,200
30	支払家賃	1		80,000	〃	1,926,200
31	買掛金	1		700,000	〃	1,226,200

売 掛 金

2

平成○年 月 日	摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 または 貸	残 高
12 5	諸 口	1	350,000		借	350,000
7	諸 口	1	100,000		〃	450,000

商 品

3

平成○年 月 日		摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 または 貸	残 高
12	2	買掛金	1	500,000		借	500,000
	5	売掛金	1		250,000	〃	250,000
	7	諸 口	1		100,000	〃	150,000
	20	買掛金	1	200,000		〃	350,000

買 掛 金

4

平成○年 月 日		摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 または 貸	残 高
12	2	商 品	1		500,000	貸	500,000
	20	商 品	1		200,000	〃	700,000
	31	現 金	1	700,000			0

借 入 金

5

平成○年 月 日		摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 または 貸	残 高
12	15	現 金	1		1,000,000	貸	1,000,000

資 本 金

6

平成○年 月 日		摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 または 貸	残 高
12	1	現 金	1		1,000,000	貸	1,000,000

商品売買益

7

平成○年 月 日	摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 または 貸	残 高
12 5	売掛金	1		100,000	貸	100,000
7	諸 口	1		40,000	〃	140,000

給 料

8

平成○年 月 日	摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 または 貸	残 高
12 25	現 金	1	30,000		借	30,000

旅費交通費

9

平成○年 月 日	摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 または 貸	残 高
12 10	現 金	1	2,500		借	2,500

消耗品費

10

平成○年 月 日	摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 または 貸	残 高
12 11	現 金	1	1,300		借	1,300

平成○年 月 日		摘 要	仕 丁	借 方	貸 方	借 または 貸	残 高
12	30	現 金	1	80,000		借	80,000

※ 仕丁欄には仕訳帳の頁数を記入します。

※ 総勘定元帳の各勘定口座における「借または貸」は、残高が「借方残高」であるか「貸方残高」であるかを示すために「借」または「貸」を記入します。

## 第 5 章 簿記一巡の手続き

### 1.

#### 合計残高試算表

平成○年 6 月 30 日

借 方		元 丁	勘 定 科 目	貸 方	
残 高	合 計			合 計	残 高
137,700	6,780,000	1	現 金	6,642,300	
66,400	950,000	2	売 掛 金	883,600	
2,020,000	4,200,000	3	商 品	2,180,000	
520,000	520,000	4	備 品		
980,000	980,000	5	車 両 運 搬 具		
	3,150,000	6	買 掛 金	4,200,000	1,050,000
	320,000	7	借 入 金	850,000	530,000
		8	資 本 金	1,700,000	1,700,000
		9	商 品 売 買 益	3,850,000	3,850,000
720,000	720,000	10	給 料		
347,000	347,000	11	福 利 厚 生 費		
812,000	812,000	12	旅 費 交 通 費		
773,000	773,000	13	通 信 費		
657,200	657,200	14	消 耗 品 費		
93,100	93,100	15	雑 費		
3,600	3,600	16	支 払 利 息		
7,130,000	20,305,900			20,305,900	7,130,000

2.

## 残高試算表

平成〇年7月31日

借方	元 丁	勘定科目	貸方
690,900	1	現金	
830,300	2	当座預金	
724,800	3	売掛金	
1,230,000	4	商品	
	5	買掛金	563,100
	6	借入金	900,000
	7	資本金	1,500,000
	8	商品売買益	3,983,200
857,200	9	給料	
681,800	10	旅費交通費	
376,300	11	通信費	
577,200	12	消耗品費	
900,000	13	支払家賃	
52,300	14	雑費	
25,500	15	支払利息	
6,946,300			6,946,300

## 第6章 現金・預金

1.

設問	借方	貸方
(1)	現金 380,000	売掛金 380,000
(2)	買掛金 250,000	当座預金 250,000
(3)	当座預金 520,000	売掛金 520,000
(4)	現金 200,000 当座預金 350,000	売掛金 550,000

※ 当店と同店の区別をしてください。この章では、同店とはその直前の商店を意味します。

## 2.

設 問	借 方	貸 方
(1)	現金過不足 32,000	現 金 32,000
(2)	消耗品費 25,000	現金過不足 25,000
(3)	旅費交通費 6,000	現金過不足 6,000
(4)	雑 損 1,000	現金過不足 1,000

## 3.

設 問	借 方	貸 方
(1)	小口現金 80,000	当座預金 80,000
(2)	交 通 費 38,000	当座預金 76,000
	通 信 費 6,800	
	消耗品費 27,400	
	雑 費 3,800	

## 4.

設 問	借 方	貸 方
(1)	買 掛 金 530,000	当座預金 500,000
		当座借越 30,000
(2)	当座借越 30,000	現 金 150,000
	当座預金 120,000	

## 5.

設 問	説 明 文
(1)	借方合計金額と貸方合計金額の差額は、当座借越¥220,000の残高を表している。
(2)	借方合計金額と貸方合計金額の差額は、当座預金¥450,000の残高を表している。
(3)	現金の手許有高と帳簿有高とを確認すると、¥37,500現金の手許有高が帳簿残高と比べて原因不明の過剰となっている。
(4)	現金の手許有高と帳簿残高とを確認すると、¥28,000現金の手許有高が、帳簿残高と比べて原因不明の不足となっている。

## 第7章 商品売買

1.

設問	借方		貸方	
10/1	仕入	480,000	買掛金	480,000
10/10	売掛金	370,000	売上	370,000
10/12	仕入	300,000	現金	180,000
			買掛金	120,000
10/16	売掛金	100,000	売上	100,000
	発送費	1,500	現金	1,500
10/20	売掛金	253,500	売上	250,000
			現金	3,500
10/25	仕入	505,000	買掛金	500,000
			現金	5,000
10/27	買掛金	40,000	仕入	40,000
10/28	売上	37,000	売掛金	37,000

### 仕入

10/1 買掛金 480,000	10/27 買掛金 40,000
12 諸口 300,000	
25 諸口 505,000	

### 売上

10/28 売掛金 37,000	10/10 売掛金 370,000
	16 諸口 100,000
	20 売掛金 250,000

【※ なお売上勘定 10/16 摘要欄は「諸口」の代わりに「売掛金」でもよい。】

## 2. (1)

	借 方	貸 方
誤りの仕訳	<del>仕 入</del> 800,000	未 払 金 800,000
正しい仕訳	<del>仕 入</del> 800,000	買 掛 金 800,000



訂 正 仕 訳	未 払 金 800,000	買 掛 金 800,000
---------	---------------	---------------

※ 買掛金勘定の貸方¥800,000の仕訳は正しいためそのまま仕訳をし、誤った仕訳の未払金勘定の貸方¥800,000を正しく訂正するため、振替仕訳により未払金勘定の借方¥800,000と仕訳することで未払金勘定は消去されます。

この訂正仕訳を行うことで、結果、(借)仕 入 800,000 (貸)買掛金 800,000という正しい仕訳となることを確認してください。

## (2)

	借 方	貸 方
誤りの仕訳	未 収 金 950,000	<del>売 上</del> 950,000
正しい仕訳	売 掛 金 950,000	<del>売 上</del> 950,000



訂 正 仕 訳	売 掛 金 950,000	未 収 金 950,000
---------	---------------	---------------

## (3)

	借 方	貸 方
誤りの仕訳	<del>仕 入</del> 650,000	現 金 300,000 <del>買 掛 金</del> 350,000
正しい仕訳	<del>仕 入</del> 650,000	当座預金 300,000 <del>買 掛 金</del> 350,000



訂 正 仕 訳	現 金 300,000	当座預金 300,000
---------	-------------	--------------

## (4)

	借 方	貸 方
誤りの仕訳	売 掛 金 170,000	<del>当座預金</del> 170,000
正しい仕訳	買 掛 金 170,000	<del>当座預金</del> 170,000



訂 正 仕 訳	買 掛 金 170,000	売 掛 金 170,000
---------	---------------	---------------

## 3.

## 仕 入 帳

平成		摘 要	内 訳	金 額
〇 年				
12	7	齊藤商店 掛 A 商品 100 個 @¥350 B 商品 80 個 @¥370	35,000 29,600	64,600
	12	鈴木商店 小切手支払 B 商品 70 個 @¥360		25,200
	15	<b>齊藤商店 掛返品</b> <b>A 商品 10 個 @¥350</b>		<b>3,500</b>
	20	佐藤商店 現金支払 C 商品 65 個 @¥380		24,700
	31	総 仕 入 高		114,500
	"	仕 入 戻 し 高		<b>3,500</b>
		純 仕 入 高		111,000

売 上 帳

平成 〇 年	摘 要	内 訳	金 額
12	10	田中商店 掛 A 商品 50 個 @¥420	21,000
	18	牧野商店 現金 B 商品 60 個 @¥450	27,000
	21	<b>田中商店 掛返品</b> <b>A 商品 5 個 @¥420</b>	<b>2,100</b>
	22	久保商店 小切手受取 C 商品 60 個 @¥470	28,200
31		76,200	
"	総 売 上 高 売 上 戻 り 高 純 売 上 高	<b>2,100</b>	
		74,100	

4.

商 品 有 高 帳

(先入先出法)

品名 D 商品

平成 〇 年	摘 要	受 入			払 出			残 高			
		数量	単価	金 額	数量	単価	金 額	数量	単価	金 額	
11	1	前 月 繰 越	60	280	16,800				60	280	16,800
	7	長 岡 商 店	40	300	12,000				{ 60 40	280	16,800
								300		12,000	
10	新 潟 商 会				{ 60 20	280	16,800				
						300	6,000	20	300	6,000	

商品有高帳

(移動平均法)

品名 D商品

平成 ○年	摘要	受 入			払 出			残 高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額
11	1 前月繰越	60	280	16,800				60	280	16,800
	7 長岡商店	40	300	12,000				100	288	28,800
	10 新潟商會				80	288	23,040	20	288	5,760

第8章 売掛金・買掛金

1.

日付	借 方	貸 方
3/10	売掛金 650,000	売上 650,000
3/20	売掛金 530,000	売上 530,000
3/24	売掛金 280,000	売上 280,000
3/28	売掛金 300,000	売上 300,000
3/31	現金 650,000	売掛金 650,000
3/31	現金 530,000	売掛金 530,000

総勘定元帳

売 掛 金

3/10	売上 650,000	3/31	現金 650,000
20	売上 530,000	〃	現金 530,000
24	売上 280,000		
28	売上 300,000		

※ 3月31日現在の売掛金勘定残高 (借方) 残高 580,000円

売掛金元帳

川越商店

平成 ○年	摘要	仕 丁	借 方	貸 方	借 または 貸	残 高
3	10 売上		650,000		借	650,000
	28 売上		300,000		〃	950,000
	31 小切手入金			650,000	〃	300,000

新宿商店

平成 〇年	摘要	仕 丁	借 方	貸 方	借 または 貸	残 高
3	20		530,000		借	530,000
	24		280,000		〃	810,000
	31			530,000	〃	280,000

※ 川越商店の勘定口座残高（¥300,000）と新宿商店の勘定口座残高（¥280,000）の合計金額が  
売掛金勘定の残高（¥580,000）と一致することを確認してください。

2.

	借 方		貸 方	
	勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
(1)	貸倒引当金繰入	20,000	貸倒引当金	20,000
(2)	貸倒引当金	18,500	売 掛 金	18,500
(3)	貸倒引当金繰入	13,400	貸倒引当金	13,400
(4)	貸倒引当金 貸倒損失	19,500 4,500	売 掛 金	24,000
(5)	貸倒引当金 貸倒引当金繰入	3,600 18,600	貸倒引当金戻入 貸倒引当金	3,600 18,600

第9章 手 形

1.

	借 方		貸 方	
	勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
(1)	① 仕 入	160,000	支払手形	160,000
	② 受取手形	160,000	売 上	10,000
(2)	① 仕 入	200,000	売 掛 金 買 掛 金	120,000 80,000
	② 受取手形 売 掛 金	120,000 80,000	売 上	200,000
	③ 買 掛 金	120,000	支払手形	120,000
(3)	① 買 掛 金	80,000	支払手形	80,000
	② 受取手形	80,000	売 掛 金	80,000

2.

		借 方		貸 方	
		勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
(1)	①	仕 入	170,000	受取手形 買 掛 金	100,000 70,000
	②	受取手形 売 掛 金	100,000 70,000	売 上	170,000
(2)		当座預金 手形売却損	199,380 620	受取手形	200,000

3.

(1)	受取手形
(2)	支払手形

## 第 10 章 有価証券

1.

		借 方		貸 方	
		勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
(1)		現 金	500	受取利息	500
(2)		現 金	900	受取配当金	900

2.

		借 方		貸 方	
		勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
(1)		売買目的有価証券	1,352,100	現 金	1,352,100
(2)		現 金 有価証券売却損	400,000 50,700	売買目的有価証券	450,700
(3)		売買目的有価証券	1,364,200	現 金	1,364,200
(4)		当座預金	800,000	売買目的有価証券 有価証券売却益	682,100 117,900

3.

		借 方		貸 方	
		勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
(1)		有価証券評価損	50,000	売買目的有価証券	50,000
(2)		売買目的有価証券	160,000	有価証券評価益	160,000

## 第11章 その他の債権・債務

1.

	借 方		貸 方	
	勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
(1)	現 金	600,000	借 入 金	600,000
(2)	貸 付 金	250,000	現 金	250,000
(3)	支払利息	3,000	現 金	3,000
(4)	現 金	1,200	受取利息	1,200
(5)	現 金	140,000	手形借入金	140,000
(6)	手形貸付金	210,000	現 金	210,000
(7)	未 収 金	30,000	消 耗 品	30,000
(8)	備 品	400,000	未 払 金	400,000
(9)	前 払 金	100,000	当座預金	100,000
(10)	当座預金	130,000	前 受 金	130,000
(11)	立 替 金	40,000	現 金	40,000
(12)	給 料	200,000	立 替 金	40,000
			現 金	160,000
(13)	給 料	310,000	預 り 金	20,000
			現 金	290,000
(14)	現 金	800,000	商 品 券	800,000
(15)	商 品 券	10,000	売 上	12,000
	現 金	2,000		
(16)	他店商品券	5,000	売 上	6,700
	現 金	1,700		
(17)	商 品 券	10,000	他店商品券	5,000
			現 金	5,000
(18)	仮 払 金	100,000	現 金	100,000
(19)	旅費交通費	85,000	仮 払 金	100,000
	現 金	15,000		
(20)	仮 受 金	170,000	売 掛 金	170,000

## 第 12 章 固定資産

1.

		借 方		貸 方	
		勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
(1)		備 品	450,000	未 払 金	450,000
(2)		建 物	12,000,000	当座預金	12,000,000
(3)		備 品	400,000	現 金	400,000
(4)	①	未 収 金	100,000	備 品	300,000
		固定資産売却損	200,000		
(4)	②	備品減価償却累計額	700,000	備 品	1,000,000
		未 収 金	100,000		
(5)	①	未 収 金	600,000	建 物	500,000
				固定資産売却益	100,000
(5)	②	建物減価償却累計額	1,500,000	建 物	2,000,000
		未 収 金	600,000	固定資産売却益	100,000

2.

		借 方		貸 方	
		勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
(1)	①	減価償却費	135,000	建 物	135,000
	②	減価償却費	135,000	建物減価償却累計額	135,000
(2)	①	減価償却費	265,682	車両運搬具	265,682
	②	減価償却費	265,682	車両運搬具減価償却累計額	265,682

## 第 13 章 個人企業の資本金と税金

1.

	借 方		貸 方	
	勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
(1)	現 金	2,000,000	資 本 金	2,000,000
(2)	現 金	1,000,000	資 本 金	1,000,000
(3)	損 益	200,000	資 本 金	200,000
(4)	資 本 金	24,000	損 益	24,000

2.

	借 方		貸 方	
	勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
(1)	引 出 金	60,000	仕 入	60,000
(2)	引 出 金	20,000	現 金	20,000
(3)	資 本 金	80,000	引 出 金	80,000

3.

	借 方		貸 方	
	勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
(1)	資本金（引出金）	30,000	現 金	30,000
(2)	資本金（引出金）	37,000	現 金	37,000
(3)	租税公課（登録免許税）	19,000	現 金	19,000

## 第 14 章 費用・収益の繰延べと見越し

1.

	借 方		貸 方	
	勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
(1)	前払費用（前払保険料）	40,000	支払保険料	40,000
(2)	支払保険料	40,000	前払費用（前払保険料）	40,000
(3)	受取家賃	200,000	前受収益（前受家賃）	200,000
(4)	前受収益（前受家賃）	200,000	受取家賃	200,000
(5)	支払利息	20,000	未払費用（未払利息）	20,000
(6)	未払費用（未払利息）	20,000	支払利息	20,000
(7)	未収収益（未収利息）	5,000	受取利息	5,000
(8)	受取利息	5,000	未収収益（未収利息）	5,000

## 第 15 章 伝 票

1.

	借 方		貸 方	
	勘定科目	金 額	勘定科目	金 額
(1)	現 金	60,000	売 掛 金	60,000
(2)	買 掛 金	30,000	現 金	30,000
(3)	備 品	300,000	現 金	300,000
(4)	仕 入	70,000	買 掛 金	70,000
(5)	売 掛 金	50,000	売 上	50,000
(6)	現 金 売 掛 金	80,000 20,000	売 上	100,000
(7)	仕 入	180,000	現 金 買 掛 金	90,000 90,000
(8)	現 金 売 掛 金	30,000 50,000	売 上	80,000
(9)	仕 入	60,000	現 金 買 掛 金	20,000 40,000



繰越試算表			
平成X7年2月28日			
借方	元丁	勘定科目	貸方
455,000	1	現金	
390,000	2	売掛金	
120,000	3	繰越商品	
900,000	4	建物	
	5	建物減価償却累計額	120,000
20,000	6	前払保険料	
	7	買掛金	230,000
	8	貸倒引当金	7,800
	9	借入金	400,000
	10	未払利息	18,000
	11	資本金	1,109,200
1,885,000			1,885,000

## 第17章 財務諸表の作成

1.

損益計算書			
(勝浦)商店 平成(X7)年(1)月(1)日から平成(X7)年(12)月(31)日まで (単位:円)			
費用	金額	収益	金額
売上原価	1,344,000	売上高	2,100,000
給料	456,000	受取手数料	14,400
貸倒引当金繰入	21,600		
減価償却費	136,800		
支払利息	24,000		
固定資産売却損	12,000		
<b>当期純利益</b>	<b>120,000</b>		
	2,114,400		2,114,400

貸借対照表				
(勝浦)商店		平成(X7)年(12)月(31)日		(単位:円)
資産	金額	負債および純資産(資本)	金額	
現金	480,000	買掛金	441,600	
売掛金	420,000	借入金	600,000	
貸倒引当金	21,600	資本金	2,400,000	
商品	336,000	当期純利益	120,000	
備品	324,000			
減価償却累計額	64,800		259,200	
車両運搬具	2,160,000			
減価償却累計額	72,000		2,088,000	
	3,561,600		3,561,600	